

景況実感調査(2021年4月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 材料の逼迫状況は大分緩和されて来たが、まだサイズによってはメーカーの生産が遅れていることもあり歯抜けがある。メーカーの値上げ要請が次から次へと出て来るが、どこまで転嫁できるか先の顧客が耐えられるか不安はつきない。
- ② 在庫確保に追われ販売が後手後手となっている。再スリット委託加工が多く、母材不足を痛感する。無理な材料手当により3か月後に倒産が増えそうだ。コロナ、値上げ、材料不足と明るい話題がない。
- ③ 4月は前月比微減となり、問い合わせや引合いが減少したように感じる。薄板は品不足とメーカーの追加値上げで価格の上昇基調が続いており、まだまだ終りが見えない。客先への価格転嫁はピッチを上げないと追いつかない状況だ。
- ④ 母材がUPしても受注残消化で在庫が作れない状況が続き、スポット対応ができない。価格も毎月切り上げているが、それでも確保の依頼が続く。前例のない価格帯に突入するのも時間の問題だが、逆に与信のアンテナも張る必要があり、注力している。各需要家の値上げ転嫁と仕事量のヒアリングは常にしている。
- ⑤ 実働21日となり、対前月比2日減。売上・数量ともに対前月、対前年を下回るトレンドは続行中。世界的な鉄鋼不足、需給相場による価格上昇と玉不足の傾向は足下の国内需要の弱さと裏腹に国内店売り市場の体力を奪って行く。日鉄、JFEの22年3月期の決算予測も発表され、メーカー主導での業績急回復後も視野に入ってきたが、まずは市況の安定と紐付き価格の底上げ etc.を進めて欲しい。良くも悪しくもメーカー主導の業界であるのだから。
- ⑥ メーカーからの在庫数量が減少。今後5、6、7月と品不足がまだまだ続きそうだ。

中板

- ① 3月に引き続き4月に入っても受託加工は堅調であったが、後半、期待していたGW前の駆け込みは冴えず、店売りの引合いも一段落した印象である。そうした中、メーカー店売り材の相次ぐ大幅値上げ表明がなされたが、紐付き価格と連動していないだけに、今後の価格転嫁に苦慮することは必至で戸惑っている。今後、価格面と供給面から各ユーザーの集購への移管が一層進むことが予想され、きめ細かく少量ロット対応でユーザーと接し生きてきた下流流通の機能は、益々希薄化するのではないか。コイルセンターにとっては、加工機能で生きていかざるを得ないが、加工賃は40年前と殆ど変わっていないだけに・・・。
- ② 東京製鉄の5月販売価格1万円～1万3千円の値上げ発表後に、高炉メーカーも薄板1万円～1万5千円の値上げといわれている。目立った動きはないが、考えていた以上に値上げペースを上げていかないと相場に追いつかない状況。材料は申し込みカット、入荷遅れも続き歯抜けも出ている。安定した相場は期待できず、海外マーケットから見ても更なる値上げも考えられ、お客様には丁寧に値上げを説明して行きたい。

厚板

- ① 建機関連の増産もあり、需要家向けの厚板は好調。店売り関連はやや苦戦。
- ② <全体概況>鉄鋼メーカーの供給タイト感が継続しており、納期は長期化傾向。鉄源が自動車向け等の薄中板向けに優先され、厚板(特に店売り)向け材料の供給が不足する状況が続いている。

<分野別>建機メーカーは、北米/アジアを中心とした販売回復を見越し、各社ともに生産台数は直近ピークの2018年度を超える規模の計画となっている。産機分野も、日本工作機械工業会の統計によると、外需(特に中国)がけん引する格好で受注は「底打ち状態」から「拡大基調」に移ってきている。建機分野に続き産機分野の顕著な回復に期待したい。店売り分野では、実需の停滞による価格転嫁が思ったように進んでおらず苦しい状況が続く。

<その他>メーカーの高炉休止は解除されたが、契約残消化の目的から一部受注を調整する動きもあり、前述の通り今後暫く材料の供給がタイトな状況が続く見通し。団地内でも好調分野に関連する材料を扱う業者については仕事が増えてきている。

—舟安开形鋼

- ① 4月を含めここ数カ月の荷動きに大きな変化はなくも、メーカーの値上げラッシュで採算は4月の前年同月比は2割弱悪化。業界もコロナ禍にはまって約1年過ぎて、そろそろ立ち位置が観えてきた感あり。採算の工夫が急務。
- ② 今後、物流倉庫が増えて、事務所、店舗、工場が減少していくのではないか。鉄の動向が良くない。木造建築に変わっている物件も出てきている。

工开形鋼

- ① 4月の倉出しは微増。前年同月比では減少。4月中旬以降に土木向けの引合いが増え、底堅い需要はある。メーカーは強気な姿勢を崩さず、流通として早期に再販単価の値上げを目指していく。
- ② 数量については3月比ほぼ横ばいも、日当たりでは2月、3月が悪かったこともあり3月比増となり不需要期は脱した感じはあるものの、今上期の需要増は期待できない状況も、メーカーの値上げは今後も続くことが予想されるため、我々流通としては需要動向、在庫状況がどうあれ、とにかくメーカー値上げの転嫁しか生き残るすべはない。

異形棒鋼

- ① 新年度入りしたが、荷動きは一段と落ち込み、昨年4月より悪い環境である。メーカーの強気姿勢に対して流通は市況維持がやっとであり、経費を確保できない状況にある。
- ② 4月の動きはコロナ前に戻った。しかし、5月は稼働日が少なく、足して2で割れば低位安定だと思う。メーカーは価格を更に上げてきている。5月中旬からは販価を上げたい。緊急事態、オリンピックと後半は辛抱か。
- ③ 今後更に厳しくなると思う。

平鋼

- ① 4月の荷動きは、後半多少持ち直したが、前月よりも悪化した。前年も4月は緊急事態宣言下で大きく落ち込んだが、今年は前年より更に悪い。実需の少なさと急激な値上がり影響しているのではないか。販売不振と採算悪化は当面続くと思われ、暫くは我慢の時期となりそうだ。
- ② 販売価格の改定に注力している現状だ。荷扱い量は微減から横這いで推移しているが、メーカーの更なる値上げが予想されることから、もう一段の価格改定が必要になる。今後の荷扱いは横這いで推移するものと思われる。

軽量形鋼

- ① 原材料逼迫と価格高騰のため、今期はかなり厳しい環境となる。
- ② メーカー出荷が一段と悪くなってきており、品薄サイズが散見されるようになってきている。

鋼管

- ① 母材 HC 事情から溶協メーカーの値上げピッチが加速しており、需要が乏しい中、高炉品を含めて市況は急上昇している。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車や建機、産業機械等の主力需要分野で回復傾向が継続しており、底堅い動きとなっている。紐付き需要は堅調ながら、店売りは横這いで推移。市中在庫は一部で品薄や欠品も見受けられる。価格については、年明け以降のメーカー値上げ分が概ね転嫁され、強基調。

磨棒鋼

- ① 長らく低迷していた小口の店売りも、ようやく計画を上回るまで回復してきた。ただ、受注内容はさらに細かく、急ぎの物件が多くあり、デリバリーに苦慮することが多い。紐付き品は自動車、建機、産機向けともに需要が旺盛な状況が続いている。ただ、自動車向けについては半導体不足から、今後大幅な調整が見込まれている。販売価格の改定については、今後大口の紐付き品の交渉が始まるが、かなり厳しい状況になることが見込まれる。

その他

<電線>

- ① 銅相場の高騰により価格転嫁が厳しい。

<鉄スクラップ>

- ① 環境問題の面から見ても鉄スクラップが注目されている事もあり、今後ますます貴重なリサイクル資源となってきそう。世界的に見てもスクラップの需要は旺盛で、スクラップ市況は上昇が続きそう。

<金属表面処理>

- ① 4月は継続中の物件があり、予定通りの扱い量となったが、スポットの扱い量は予想に反し荷動きが非常に悪く20%ダウン。4月中旬以降の引合いも少なく、5月も同様の扱い量を予定。5月以降、同様の環境が予想されるので、感染リスクを極力抑えるためにも、交替勤務による操業調整を再度検討する。